

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

|                                | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営                    | 11  |
| 1. 理念の共有                       | 2   |
| 2. 地域との支えあい                    | 1   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用          | 3   |
| 4. 理念を実践するための体制                | 3   |
| 5. 人材の育成と支援                    | 2   |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援          | 2   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      | 1   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      | 1   |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント  | 6   |
| 1. 一人ひとりの把握                    | 1   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2   |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              | 1   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    | 2   |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援      | 11  |
| 1. その人らしい暮らしの支援                | 9   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり        | 2   |
| 合計                             | 30  |

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 4272000219        |
| 法人名   | 社会福祉法人 あすか福祉会     |
| 事業所名  | 高齢者グループホーム 真の大樹   |
| 訪問調査日 | 平成 19 年 11 月 19 日 |
| 評価確定日 | 平成 20 年 1 月 16 日  |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会 |

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

|               |   |
|---------------|---|
| 事業所番号         | 4272000219                              |
| 法人名           | 社会福祉法人 あすか福祉会                           |
| 事業所名          | 高齢者グループホーム 真の大樹                         |
| 所在地<br>(電話番号) | 長崎県対馬市美津島町雞知甲884-5<br>(電話) 0920-54-8177 |

|       |                   |       |            |
|-------|-------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会 |       |            |
| 所在地   | 長崎県長崎市茂里町3番24号    |       |            |
| 訪問調査日 | 平成19年11月20日       | 評価確定日 | 平成20年1月16日 |

## 【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |                 |                        |      |
|-------|-----------------|------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 5 月 1 日 |                        |      |
| ユニット数 | 2 ユニット          | 利用定員数計                 | 18 人 |
| 職員数   | 14 人            | 常勤 14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 | 14 人 |

### (2) 建物概要

|      |                  |                    |
|------|------------------|--------------------|
| 建物形態 | 併設 <del>単独</del> | <del>新築</del> / 改築 |
| 建物構造 | 木造ストレート 造り       |                    |
|      | 1 階建ての           | 1 階部分              |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |          |                |       |
|---------------------|----------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額)            | 3,100 円  | その他の経費(月額)     | — 円   |
| 敷 金                 | 有( 円)    | (無)            |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)    | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費                | 朝食       | 円              | 昼食 円  |
|                     | 夕食       | 円              | おやつ 円 |
|                     | または1日当たり |                | 780 円 |

### (4) 利用者の概要(平成19年 4月 1日現在)

|       |            |         |         |
|-------|------------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名       | 男性 3 名  | 女性 15 名 |
| 要介護1  | 7 名        | 要介護2    | 6 名     |
| 要介護3  | 3 名        | 要介護4    | 2 名     |
| 要介護5  | 名          | 要支援2    | 名       |
| 年齢    | 平均 83.05 歳 | 最低 71 歳 | 最高 98 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |               |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | 離島医療圏組合 中対馬病院 |
|---------|---------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「尊厳」を理念に掲げ、利用者の尊厳を大切に、利用者本位の支援に努めており、管理者や職員は外部評価を前向きに捉え、前回の評価結果をもとに改善課題に積極的に取り組み、目に見える改善が図られている。  
職員は運営理念のもと、利用者の尊厳を守り、利用者が安心して生活を送れるように、積極的に研修会に参加したり、他事業所の職員とも交流したりして研鑽を積みながら、利用者の得意分野やこれまでの経験等を活かして、家事や畑仕事、趣味などを楽しみながら行えるように支援している。  
今後、運営推進会議を活用し地域との交流を深めながら、事業所の機能を地域に還元していくことが期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

|           |  |
|-----------|--|
| 重点項目<br>① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)   |
|           | 前回の評価結果をもとに、ホーム便りなどの広報誌を年1回から3ヶ月に1回発行するようにしたり、毎月の定期受診以外に、総合的な健康診断を年1回受けることができるように支援したりと、改善への取り組みが見受けられる。また、歯科医の協力による口腔ケアへの積極的な取り組みや、ホーム内外の苦情受け付け窓口の明示についても取り組んでおり、評価を活かして多くの取り組みを実施している。 |
| 重点項目<br>② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  |
|           | 今回の自己評価への取り組みは、職員会議で職員全員に周知しており、全員で自己評価に取り組んでいる。   |
| 重点項目<br>③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)   |
|           | 運営推進会議では、外部評価結果やホームの現状の報告を行うとともに、利用者がホーム周辺の散歩をすることがあるため、地域住民への見守りの協力をお願いしたり、回覧板を回してもらい情報を得て、利用者と一緒に地域行事へ参加できるようにしたりするなど、会議を開催することにより、意見や協力を得られるよう取り組んでいる。                                |
| 重点項目<br>④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  |
|           | 面会時や定期的な利用者の生活や金銭管理の状況報告だけでなく、利用者にも少しでも変化が見られる場合には、電話で直ちに連絡している。また、日頃の会話の中で家族の意見や要望について聞いており、意見などについてはすぐに職員に伝え、対応するようにしている。  |
| 重点項目<br>④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)   |
|           | 地域のお祭りなど行事には、利用者と一緒に積極的に参加しており、敬老会などのホーム行事には地域の民生委員、区長を招待している。また、自治会に入り回覧板を回してもらうなどの取り組みを行っている。  |

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |   |  |      |   |
| 1. 理念と共有              |    |   |  |      |   |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 認知症高齢者ケアの基本として「尊厳」を理念に掲げ、より良いサービスを提供できるよう実践に取り組んでいる。   |      | 理念をもとに、地域密着型サービスとしての視点からも方針等を掲げると、より効果的ではないだろうか。                        |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 職員には、採用の際に運営理念について説明し理解を促している。また、毎月の職員会議で運営理念を確認しており、理念を念頭にケアに取り組んでいる。   |      |   |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |  |      |   |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 地域の行事には、利用者と一緒に積極的に参加しており、自治会に入り回覧板を回してもらおうなどの取り組みがあるが、日頃買い物や散歩の際に近所の住民と会話を交わすなどの交流が十分に図れていない。   | ○    | 運営推進会議を通して、民生委員等の協力を得たり、職員や利用者から積極的に挨拶をしたりするなど、今後の取り組みを期待したい。           |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |  |      |   |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 前回の評価結果をもとに、広報紙の発行頻度を年1回から3ヶ月に1回に増やし、定期受診以外にも、利用者が年1回は総合的な健康診断を受けられるように取り組んでいるほか、ホーム内外の苦情受け付け窓口について掲示しており、改善への取り組みが見受けられる。また、今回の自己評価に対しては、職員会議で話し合いを持ち、職員全員で取り組んでいる。 |      | 前回の自己評価票及び調査結果報告書をホーム内に掲示しているので、もう少しわかりやすいように掲示方法を工夫されると、更に効果的ではないだろうか。 |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、外部評価結果やホームの現状の報告を行うとともに、利用者がホーム周辺の散策をすることがあるため、地域住民への見守りの協力をお願いしたり、回覧板を回してもらい情報を得て、利用者と一緒に地域行事へ参加できるようにしたりするなど、会議を開催することにより、意見や協力を得られるよう取り組んでいる。            |      |   |

長崎県 高齢者グループホーム真の大樹

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 運営推進会議以外にも、困りごとがあれば電話で相談しており、ホームで開催する行事について、市の担当者等にも案内している。  | ○    | 市の担当者や地域包括支援センターの職員との連携を密に行いながら、一緒に勉強会を開くなどサービスの質の向上に向けた取り組みを検討されることを期待したい。     |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |  |      |   |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 利用者の状態に少しでも変化が見られる場合には、すぐに家族に電話連絡しており、金銭管理についても定期的に報告を行っている。また、3ヶ月ごとに発行しているホーム便りには多くの写真を掲載し、利用者の様子を伝えている。              |      |   |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | ホームに苦情相談窓口を設置するとともに、外部の相談窓口についてもホーム内の掲示などにより家族に周知している。苦情はほとんどないが、家族からの意見や要望については、日頃の会話の中で聞いており、すぐに職員間で共有し、対応するようにしている。 |      | ホーム内に相談窓口等の案内を掲示しているので、掲示場所を検討し、分かりやすい場所に掲示すると更に効果的ではないだろうか。                    |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員が異動や退職する場合は、職員から利用者に対して十分に話をし安心してもらえるように配慮しており、職員同士の十分な引継ぎ期間を設け、できるだけ利用者へのダメージを抑えられるように努めている。                        |      |   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |  |      |   |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 島内での研修に職員が交代で参加できるように配慮して、すべての職員の研修参加の機会を確保している。また、管理者から職員へのOJTを実践するとともに、毎月の職員会議でも話し合いを持っている。                          | ○    | 法人内の研修への積極的な参加とともに、島外で開催される研修会への参加について計画を立てながら、できるだけ参加できるように検討し、取り組まれることを期待したい。 |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 本年度より対馬地区のグループホーム連絡協議会が設立されたため、加入した事業所との交流の機会を増やし、研修会を企画している。  |      |   |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |   |  |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |   |  |      |                                  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前には家族に必ずホームの見学をしてもらい、ホームの雰囲気を把握してもらったり、理念を伝えたりしている。また、利用希望者本人にもできるだけホームの見学をもらい、入居後は居室に自宅から馴染みの日用品などを持ち込んでもらい、職員も利用者ができるだけ不安を抱かないように配慮して支援している。 |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |   |  |      |                                  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                        | 利用者一人ひとりの性格や生活歴等を把握し、意向をしっかりと聞きながら支援している。訪問調査当日は職員と利用者が一緒に料理を作っており、お互いに声を掛け合いながら作業を行っている様子が見受けられた。   |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |   |  |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |   |  |      |                                  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 日々の利用者の支援の中で話をよく聴き、利用者が意思決定しやすいように心がけ、一人ひとりの決定を尊重するように努めている。   |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |   |  |      |                                  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している         | 利用者や家族が希望する暮らしについて、しっかりと意見を聞き、職員間で話し合い、必要に応じて医療機関とも一緒に検討しながら介護計画を作成し、利用者や家族に内容を確認してもらっている。   |      |                                  |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している     | 毎月行うカンファレンスで全職員が利用者の状態を把握し、介護計画の期間に応じた定期的な見直しはもとより、利用者の状態に変化があった際にも必要に応じて介護計画を見直している。  |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |   |  |      |                                   |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                           | 身寄りのない利用者には、入院時の面会や洗濯などの支援を行うほか、通院の付き添いなど、利用者や家族の希望に合わせた支援を柔軟に行っている。   |      |                                   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |  |      |                                   |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 利用者が以前から利用していたかかりつけ医を月1回受診できるよう支援しており、通院も職員が付き添って支援している。また、本人や家族の了承のもと、利用者の状態に合わせてホームの協力医やホーム近隣の医療機関を利用してもらう場合もある。 |      |                                   |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合や終末期の対応については、利用者や家族の意向を把握して希望に添った支援を行うようにしており、職員間で話し合いを行い方針を共有している。   |      |                                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |   |  |      |                                   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |   |  |      |                                   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |    |   |  |      |                                   |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 職員が利用者の居室に入るときには、必ず利用者を確認し許可を得て入室している。また、日頃の声かけや対応についても、利用者一人ひとりの性格やこれまでの生活習慣などを把握し、プライバシーを損ねることのないように対応している。      |      |                                   |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 利用者の意向を必ず確認しながら、外出など利用者の希望や生活リズムに合わせて支援している。   |      |                                   |

長崎県 高齢者グループホーム真の大樹

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |   |      |   |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 利用者の好みのもや希望を取り入れながら献立を作成しており、職員はさりげなく利用者の動きを見守りながら、一緒に食事の準備や後片付けを行っている。また、食事も利用者と職員と一緒に摂っており、食事を楽しめるように支援している。  |      |   |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 利用者の意向を必ず確認し、利用者の希望する日や時間に合わせて支援をしており、毎日入浴ができるように体制を整えている。  |      |   |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |   |      |   |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者一人ひとりの得意分野や経験などに合わせて家事や畑仕事などを行ってもらっている。また、利用者の誕生日会や旅行を実施しており、希望に合わせてレクリエーションにも参加してもらうなど、楽しみのある生活を支援している。訪問調査の際はカラオケを行っており、強制をすることはないが利用者全員が参加していた。 |      |   |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 利用者の希望に合わせて、毎日の食材の買い出しなどの外出を支援しており、夏祭りなどのイベントが行われる際には、必ず希望者を募り参加している。   |      |   |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |   |      |   |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 日中は、玄関に鍵をかけず常時開放しており、職員の見守り支援のもと、外出する利用者に対して、安全面にも配慮した支援を行っている。   |      |   |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 消防署との連携体制を整え、協力を得ながら年2回避難訓練を実施しており、緊急対応マニュアルも整備しているが、職員がそれぞれの役割を十分に理解できていない面がある。  | ○    | 運営推進会議等を通して近隣の住民にも協力してもらえるよう働きかけるとともに、職員一人ひとりが十分に役割を把握し、緊急時に対応できるように取り組むことを期待したい。 |

長崎県 高齢者グループホーム真の大樹

| 外部                      | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 28                      | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 栄養のバランスに配慮し、法人内の管理栄養士が献立を立てており、利用者一人ひとりの食事摂取量を記録している。また、嚥下機能が低下している利用者には、とろみをつけるなどの工夫を施し、それぞれの状態に合わせた支援を行っている。                                 |      |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり |    |   |  |      |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり          |    |   |  |      |                                   |
| 29                      | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下はすれ違うのに十分な広さがあり、トイレや手すりにも配慮が感じられる。共用空間には、畳の間にコタツを設置しており、利用者がそれぞれに自由に過ごせるような配慮があり、自然採光で明るすぎず、清潔感のある空間となっている。また、裏庭には野菜畑があり、利用者と職員と一緒に野菜を作っている。 |      |                                   |
| 30                      | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    | 居室にはベッドを配置しても空間に十分な余裕があり、ホームで用意しているベッドやタンスのほかにも写真や位牌など自宅から持ち込まれたものもある。また、布団類は自宅で使っていたものを持ってきて使用してもらっている。清潔の保持への配慮もあり、明るい部屋となっている。              |      |                                   |